

「NICU 入院児におけるカップ授乳導入前後の母乳率及び直接授乳率の比較」

に関する臨床データの研究利用についてのごお願い

研究の概要・背景

NICU に入院するお子さんにとって、母乳はお母さまからのオーダーメイドの薬といわれるほど重要であり、壊死性腸炎や後天性感染症の頻度を減少させることや、腸管の発達を促進すること、網膜症を予防することなど多くの利点があります。しかし、NICU に入院したお子さんのお母さまは、搾乳の重要性を理解していながらも、身体的苦痛や疲労感、児が傍にいない中での搾乳に対する虚しさなどから搾乳回数が減少し、徐々に搾乳量が減少することがあります。多くのお母さまが母乳育児を希望していても、母乳のみで育てることが難しい現状が NICU には存在します。そこで当院 NICU は令和 4 年度より、母乳育児支援の一環としてカップ授乳を導入しました。カップ授乳とは、哺乳びんの代わりに使用する専用のカップを使用して哺乳する方法で、先行研究ではびん哺乳よりもカップ授乳の方が、哺乳中の心拍や酸素飽和度（体の中の酸素量）が安定し、直接授乳が向上すると報告されています。

本研究はカップ授乳導入前後の母乳率及び退院時の直接授乳率の変化を報告するとともに、NICU における今後の母乳育児支援について検討することを目的に実施します。

母乳率：NICU 入院から退院まですべての栄養が母乳であったお子さんの割合

直接授乳率：NICU 退院時、退院後の授乳方針が直接授乳のみであったお子さんの割合

試料・情報の利用目的・方法（他機関への提供を含む）

臨床データより 1) 出生在胎週数、2) 出生体重、3) 出生形態（双子、三つ子など）、4) 入院中の栄養内容（母乳栄養の回数/全栄養回数）、5) 退院後の授乳方針を収集します。

対象者・期間

対象者は、以下の期間に当院 NICU に入院となった、出生体重 2000g 以下のお子さんです。

カップ授乳導入前：

【カップ授乳導入前群】令和 3 年 1 月～令和 3 年 12 月

カップ授乳導入後：

【カップ授乳導入初期群】令和 5 年 1 月～令和 5 年 12 月

【カップ授乳導入定着群】令和 6 年 1 月～令和 6 年 12 月

なお、重篤な先天性疾患を有するお子さん、入院中に亡くなられたお子さん、医学的理由で特殊ミルクを使用したお子さんは含めません。

データ利用のお願いと申し出について

これらの臨床データは通常の診療で記録されたもので、患者さんに新たな負担はありません。また、個人を特定できるような状態でデータを使用すること、得られたデータを本研究以外に使用することはありません。本研究の目的と、臨床データ利用に関するご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、本研究に関するさらなる説明をご希望の方、研究結果について説明をご希望の方、本研究において臨床データの利用を希望されない方は、令和 8 年 6 月末日までに、下記問い合わせ窓口にご連絡ください。研究不参加を申し出られたとしても、患者さんが不利益を受けることは一切ありません。

【お問い合わせ先】

長岡赤十字病院 NICU

担当者:富田 幸

〒940-2085 新潟県長岡市千秋 2-297-1

電話:0258-28-3600(代)、FAX:0258-28-9000(代)